

安全データシート

改訂日:2022年8月23日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

しゅう酸アンモニウム水和物
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
CB1751

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性:区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分2A
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分2(中枢神経系、腎臓)
区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分2(腎臓)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
皮膚刺激
強い眼刺激
腎臓、中枢神経系の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復ばく露による腎臓の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
【応急措置】
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施設して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。

他の危険有害性

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
含有量
官報公示整理番号(化審法/安衛法)
その他

化学物質
しゅう酸アンモニウム水和物
(NH₄)₂C₂O₄・H₂O
CAS RN: 6009-70-7
99%以上
(1)-1199 / 2-(4)-250
HSコード: 2917.11

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯をすること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
直ちに医師の診断を受けること。

<p>5. 火災時の措置</p> <p>適切な消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性</p> <p>特有の消火方法</p> <p>消火を行う者の保護</p>	<p>水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 棒状注水 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置</p> <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p> <p>環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材</p>	<p>作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境への放出を避けること。 飛散発じんしないようにして、掃き集めて密閉できる空容器等に回収する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p> <p>取扱い</p> <p>技術的対策</p> <p>安全取扱注意事項</p> <p>接触回避 衛生対策</p> <p>保管</p> <p>安全な保管条件</p> <p>容器包装材料</p>	<p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。 粉じん、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 飲み込みを避けること。 排気用の換気を行うこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗い、うがいをする。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。</p> <p>酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。 毒劇法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>
<p>8. 暴露防止及び保護措置</p> <p>許容濃度</p> <p>管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH</p> <p>設備対策</p> <p>保護具</p> <p>呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>未設定 未設定 未設定</p> <p>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。</p> <p>適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。</p>
<p>9. 物理的及び化学的性質</p> <p>物理状態</p> <p>色 臭い</p> <p>融点/凝固点 沸点又は初留点及び沸点範囲</p> <p>燃焼性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界</p> <p>引火点 自然発火温度 分解温度</p> <p>pH 動粘性率(粘度) 溶解度 n-オクタノール/水分配係数 蒸気圧 密度及び/又は相対密度 相対ガス密度 蒸発速度(酢酸ブチル=1)</p>	<p>結晶または結晶性粉末</p> <p>白色 無臭</p> <p>65°Cで無水塩になり、70°Cで分解する。 該当情報なし 燃焼性 該当情報なし 該当情報なし 該当情報なし 65~70°C 6~7(50g/L, 25°C) 該当情報なし 水に可溶(1g/20ml), エタノールに難溶 該当情報なし 該当情報なし 1.50(18.5°C) 該当情報なし 該当情報なし</p>
<p>10. 安定性及び反応性</p>	

反応性、化学的安定性 危険有害反応可能性	通常の取り扱いに於て安定。 火災時に刺激性もしくは有毒なヒュームを発生する。 酸化剤と反応する。 粉塵が舞い上がるとき、健康に有害で爆発性の粉塵・空気混合物が生じる。
避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	裸火 粉じんの拡散 強酸化剤, 強酸 加熱すると分解してオキサミドとなり、さらに分解してCO, CO ₂ 、炭酸アンモニウム、HCNなどを生ずる。
11. 有害性情報 [無水物(化学物質を特定できる一般的な番号.1113-38-8)の情報]	
急性毒性	経口: データなし。 経皮: データなし。 吸入: データなし。 (粉塵)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒトへの影響におけるICSC(J)(1995)、HSFS(1987)、HSDB(2002)に皮膚刺激性を示す記述(水泡、潰瘍、重度の熱傷)があることから、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ヒトへの影響におけるICSC(J)(1995)、HSFS(1987)、HSDB(2002)に眼刺激性を示す記述(痛み、重度の熱傷)があることから、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし。
生殖細胞変異原性	データなし。
発がん性	データなし。
生殖毒性	データなし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	Priority 2文書のICSC(J)(1995)およびSITTIG(4th, 2002)のヒトへの影響における記述から、区分2(中枢神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	Priority 2文書のICSC(J)(1995)およびHSFS(1987)のヒトへの影響における記述から、区分2(腎臓)とした。
誤えん有害性	データなし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: 該当情報なし (急性) 長期: 該当情報なし (慢性)
残留性・分解性	該当情報なし
生体蓄積性	該当情報なし
土壌中の移動性	該当情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	2811
品名(国連輸送名)	Toxic solid, organic, n.o.s.
国連分類	6.1
副次危険性	—
容器等級	Ⅲ
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	154
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	劇物
消防法	危険物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき有害物 [施行令別表9]に該当しない。
水質汚濁防止法	有害物質
船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
16. その他の情報	
参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

16615の化学商品(化学工業日報社)
職場のあんぜんサイト(厚労省HP)
NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP)
国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所HP)
化学品安全管理データブック(化学工業日報社)
The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II
Merck Index 14th.
化学大辞典(共立出版)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。